



地区社協・福祉委員会 活動の手引き

社会福祉法人

刈谷市社会福祉協議会

生活支援課

刈谷市役所

福祉総務課

(令和6年9月発行)

目次

- 1 地域福祉とは？ P.1
- 2 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？ P.2
- 3 「市社協」と「地区社協」の違いは？ P.3
- 4 刈谷市の地区社協 P.4
- 5 市や市社協の支援内容は？ P.6
- 6 地区社協・福祉委員会の活動の流れ P.7
- 7 福祉委員会活動事例集 P.8

1 地域福祉とは？

地域福祉とは、すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことを目標に、地域住民・行政・社会福祉協議会・福祉サービス事業所等が協力して取り組む福祉のことです。

年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、すべての住民が地域福祉活動の対象です。



なぜ地域福祉が重要と言われているの？

少子高齢化や働き方の変化、核家族化等によって、以前はあったご近所さん同士のつながりが希薄化しています。地域のつながりがないと、日頃の支え合いができないのはもちろん、災害時に助け合うことも難しくなってしまいます。

そこで、人と人とのつながりを再構築し、助け合い・支え合いができる地域をつくるために、地域福祉が注目されています。



「福祉」の対象は助けが必要な人だけではないの？

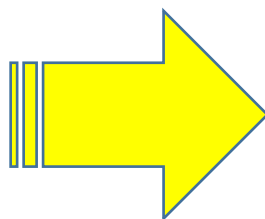
「福祉」という言葉は、以前は「高齢福祉」「障害福祉」のように対象を限定して使われることが多く、「福祉」は助けが必要な人だけのものだと思われていました。

しかし、もともと「福祉」とは、社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福のことだと定義されています。つまり、助けが必要な人のような特定のだれかだけでなく、みんなが幸せになるための取り組みのことを指します。

『ふ』だんの

『く』らしを

『し』あわせに



特定のだれかだけでなく、**みんなが幸せ**になるための取り組み

2 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？

1 地区社会福祉協議会(地区社協)とは？

住民同士が、自分たちが住んでいる地域の生活・福祉課題や困りごとについて情報共有しながら、互いに助け合い、支え合う活動をすることで、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指す、住民主体の活動団体です。

2 なぜ地区社協が必要なのか？

地域の課題を解決しようとしても、公的なサービスだけではすべてを解決することはできない時代であるとともに、個人ではできることも限られてきます。

そのため、住民同士が自分たちの住む地域の生活・福祉課題や困りごとについて話し合い、解決に向けて取り組んでいく必要があります。しかし、その場が組織化されていなければ、継続して協議することができなくなることが想定されます。

そのため、地域の生活・福祉課題や困りごとの解決に向けて継続して協議する場として、地区社協が必要であると考えています。

3 地区社協は何をするのか？

住民同士が自分たちの住む地域の生活・福祉課題や困りごとについて一緒に考え、解決に向けて取り組んでいくことを目的として活動しています。

地域の状況に合わせ、以下のような活動が全国で展開されています。

ふれ合う	学ぶ	支える	見守る	知らせる	募る
<ul style="list-style-type: none">・ふれあいサロン・コミュニティーカフェ・交流会	<ul style="list-style-type: none">・福祉講演会・福祉講座・ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none">・地域組織の支援(ボランティアグループなど)・避難行動要支援者への支援	<ul style="list-style-type: none">・見守り活動・声かけ運動	<ul style="list-style-type: none">・便り・通信の発行	<ul style="list-style-type: none">・バザーの開催

誰もが安心して暮らせるまちに、地区社協は欠かせません！

3 「市社協」と「地区社協」の違いは？

市社協は、住民や関係機関等と一緒に誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域福祉の推進を使命とする民間団体です。しかし、市社協だけではできることに限界があります。そのため、住民の「声を聴き」、住民と「共に考え」「共に支え」「共に動く」を基本として事業を展開しており、その1つとして地区社協への支援を行っています。

市社協は、地区社協を地域福祉推進の基礎組織として捉え、車の両輪となって協働し、地域の生活・福祉課題を把握し、一緒に考え、解決に向けて取り組んでいきます。

	市社協	地区社協
性格	『社会福祉法に位置づけられた民間団体』 市区町村の社協は民間団体ですが、社会福祉法という法律のなかで、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として位置づけられています。	『福祉推進の自主組織』 法的な位置づけはなく、住民の自主組織です。 愛知県でも約半数の市町村で地区社協が設立されています。
対象地域	『市全域』 市全域を視野に入れ、幅広い地域を対象にしています。	『地区ごと』 刈谷市では2中学校区ごとに設立されています。
取り組み	『福祉コミュニティ社会づくり』 全市的な福祉課題・ニーズへの取り組みや、ボランティア活動や地区社協支援等の地域福祉活動の他、介護事業等に取り組んでいます。	『住民相互活動の取り組み』 各地区の生活・福祉課題に対して、住民の助け合いによる解決に向けて取り組んでいます。刈谷市の場合は福祉委員会が活動主体となり、地区社協は各福祉委員会の情報共有をする場となっています。
組織構成	『地域で暮らす住民の皆様、社会福祉関係の事業者・活動者』 地域で暮らす住民の皆様、社会福祉や保健、医療、教育等の関連分野の関係者、さらに、地域社会の様々な機関・団体です。	『地域に密着した団体・個人』 刈谷市の場合は福祉委員会が地区社協の構成団体となっており、福祉委員会の構成員は地域に密着した団体・個人となっています。

4 刈谷市の地区社協

刈谷市では市を北部・中部・南部の3エリアに分け、それぞれで地区社協が設立されています。

	北部地区社協	中部地区社協	南部地区社協
設立年度	令和6年度	令和元年度	平成28年度
活動範囲	富士松・ 雁が音中学校区	刈谷南・ 刈谷東中学校区	依佐美・ 朝日中学校区
構成組織	福祉委員会	福祉委員会	福祉委員会

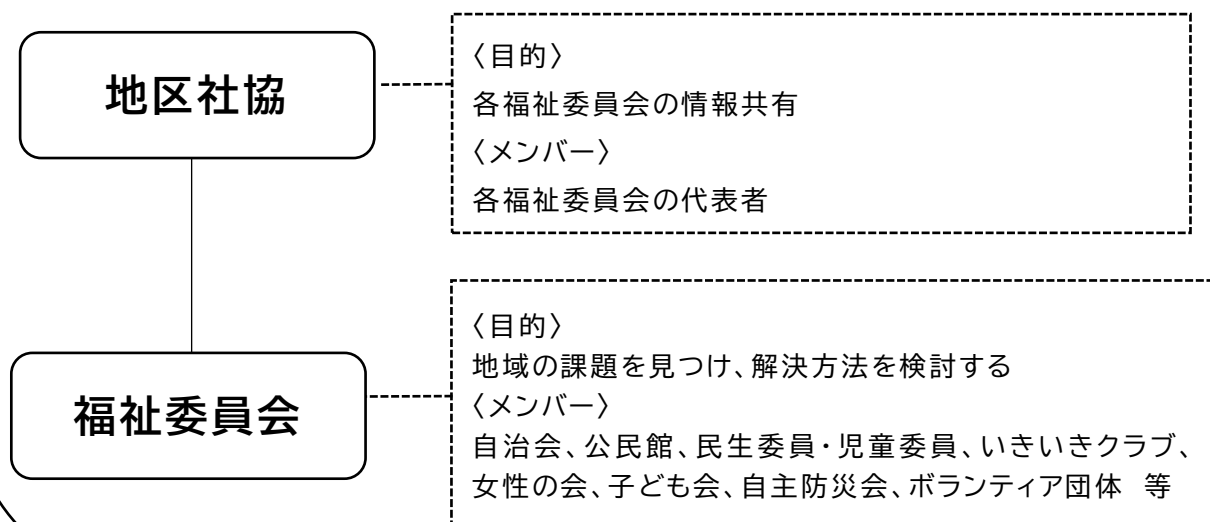


福祉委員会とは？

地区社協を構成する組織として「福祉委員会」が設立されています。地区社協では活動範囲が広すぎて、きめ細やかな活動がしづらいと考えるためです。

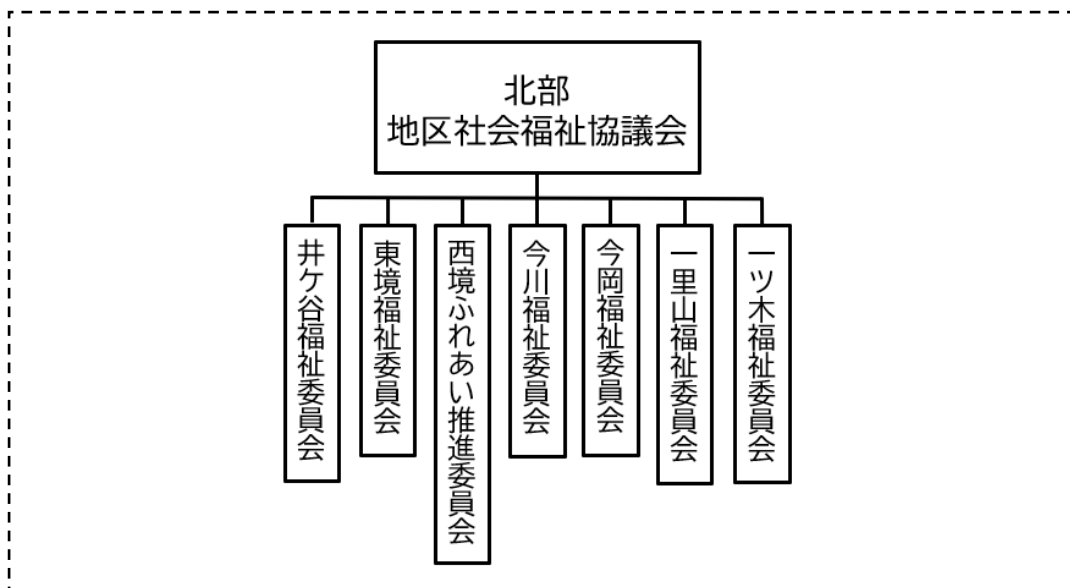
福祉委員会は、自治会を単位として設立されています。自治会、公民館、民生委員・児童委員等の地域で活動している人が集まり、その地域の課題について話し合い、課題解決に向けて取り組んでいます。

地区社協は、各福祉委員会の情報共有をする場として機能しています。

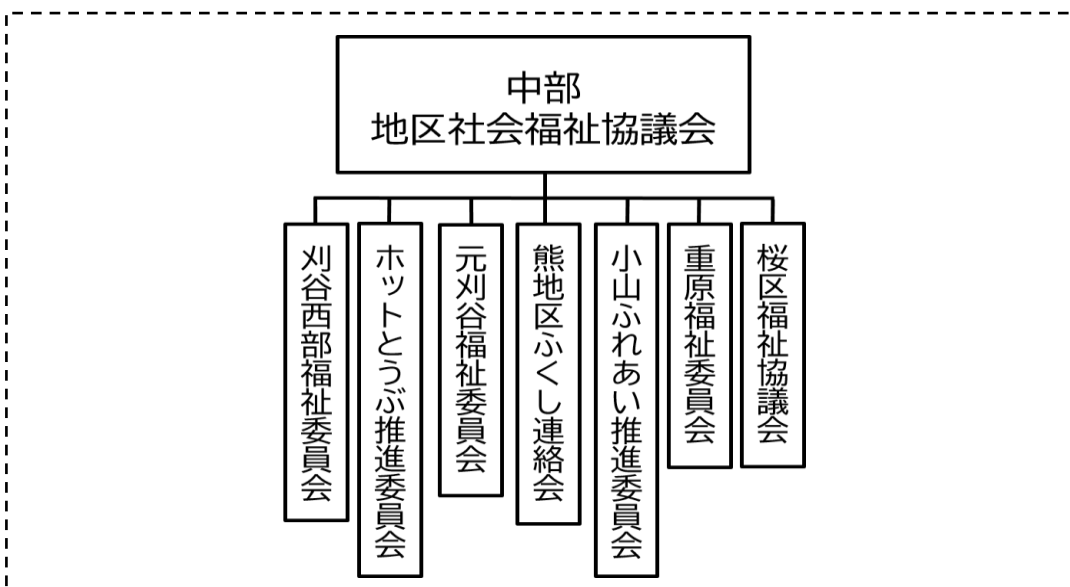


[地区社協組織図]

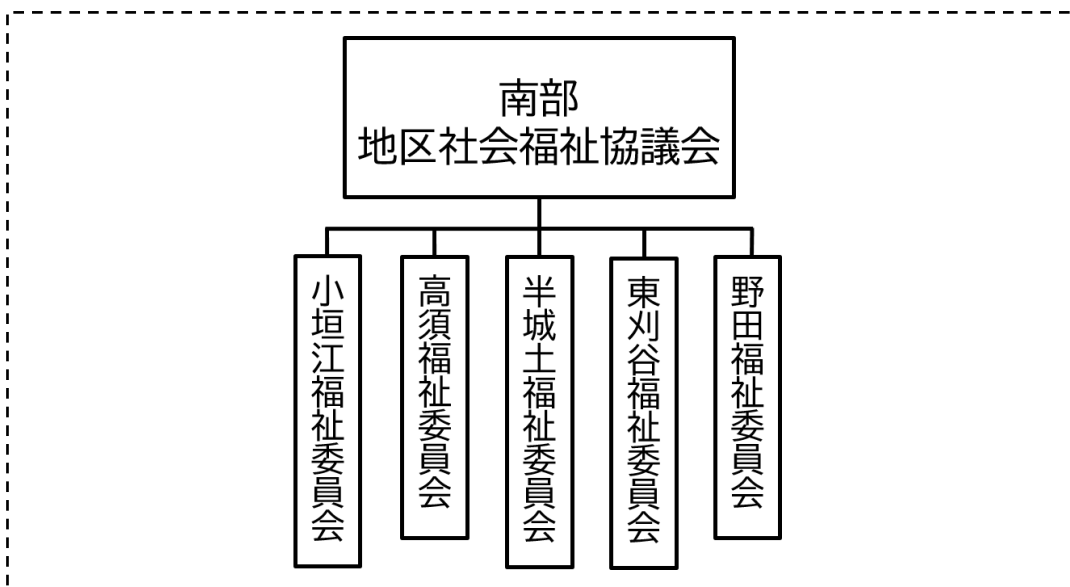
北部



中部



南部



5 市や市社協の支援内容は？

市や市社協は、地区社協・福祉委員会に対して設立支援や活動支援を行い、活動が円滑に進むようにサポートします。



市や市社協は、具体的にどんな支援をしてくれるの？

市や市社協は、地区社協・福祉委員会のサポート役として、以下の支援を行います。

- 活動費の助成(年8万円)
- 活動アイデアの提案、助言
- 会議の日程調整、資料作成、進行補助、記録作成 等

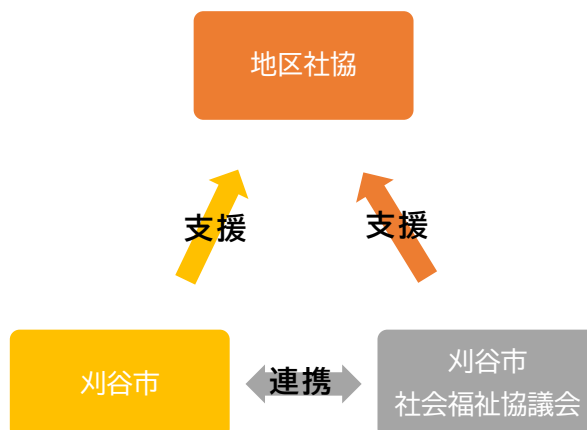
地区社協・福祉委員会の活動が円滑に進み、皆さんに過度な負担がかからないように、市や市社協が担える事務作業等をお手伝いします。



市・市社協・地区社協は地域づくりをともに行うパートナー！

地域課題の中には、地区社協・福祉委員会では解決できないものもたくさんあります。逆に、住民組織である地区社協・福祉委員会だからこそ解決できるものもたくさんあります。

制度のもとに動く市、専門職が集まる市社協、地域のことを一番知っている地区社協・福祉委員会は、地域づくりをともに行うパートナーとして、協力して地域課題の解決に取り組みます。



6 地区社協・福祉委員会の活動の流れ

1 地域の中に横のつながりをつくる

地域の課題を解決する第一歩は「地域の中に横のつながりをつくる」ことです。

地域によっては団体同士のつながりが薄く、それぞれがどのような活動をしているか把握していないこともあるかもしれません。

まずは顔を合わせて横のつながりをつくり、お互いの活動を知ります。活動を知ることによって新たな発見があったり、自分の団体の活動に生かすことができたりします。

2 地域の課題を出し合う

横のつながりをつくりながら、地域の課題について話し合います。「地域の課題」というと漠然としていてわかりづらいので、各団体が抱える課題を出し合うのもいいかもしれません。課題を話し合うことで、「1個人・1団体が抱える課題」が「地域全体が抱える課題」に変わります。

3 課題を整理する

次は、課題を整理します。

出てきた課題すべてをいきなり解決することはできません。また、地区社協・福祉委員会では解決できない課題も含まれているかもしれません。

そこで、「この課題は地区社協・福祉委員会で解決できるのか」「早く解決すべき課題は何か」等を整理することで、今取り組むべき課題が見えてきます。

4 課題の解決方法を検討し、活動を始める

地区社協・福祉委員会として取り組む課題が決定したら、その解決方法を検討します。

地区社協・福祉委員会はすべてにおいて実施主体である必要はありません。活動に応じてボランティアを募集したり、関係団体と協力したりして取り組みます。

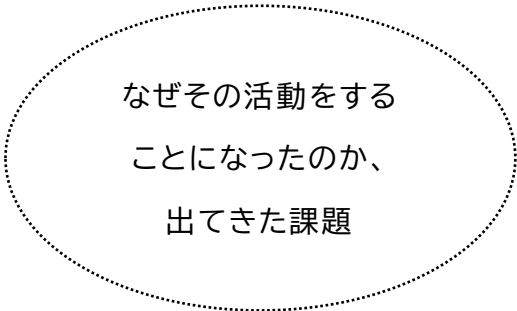
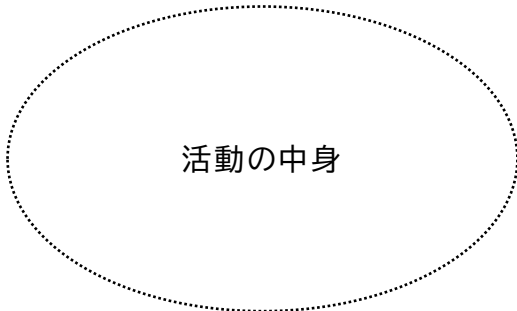
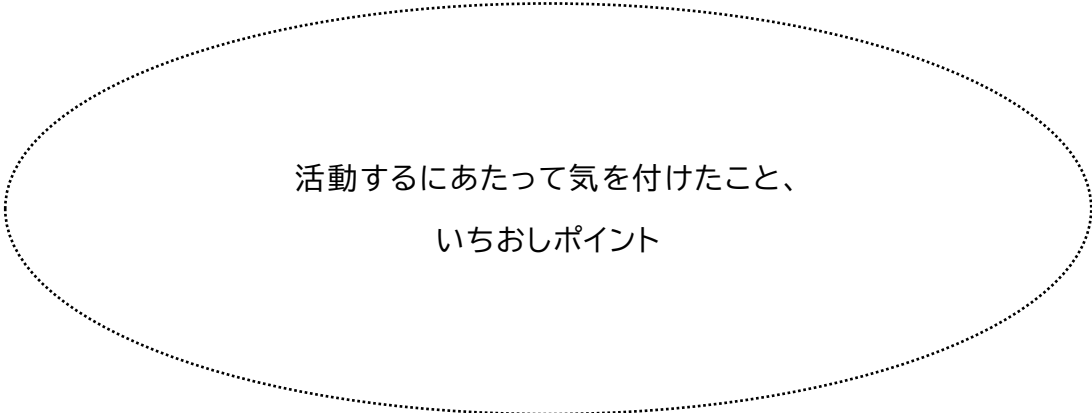
また、課題の解決アイデアが思いつかない場合は、他の地区社協・福祉委員会の活動を参考にするのも1つの手です。

次ページから刈谷市の福祉委員会の活動事例が載っていますので、ぜひ参考にしてください。

7 福祉委員会活動事例集

刈谷市の福祉委員会の活動事例をご紹介します。参考に、ぜひご覧ください！

※活動事例集の見方※

活動タイトル		
福祉委員会名		
活動に至った背景	活動の概要	
		
活動のポイント		
		

活動タイトル	ラジオ体操を活用した集いの場づくり	
福祉委員会名	小垣江福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・小垣江地区には市民館、市民センター、集会所等の集まる場所が多く、サロン活動もさかんだが、地区が広いため徒歩で会場へ行けない人も多かった。 ・「小垣江ラジオ体操の会」というボランティア団体が地区内で活動していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区にある公園やお寺等でのラジオ体操の開催を支援し、集いの場を増やす。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・ラジカセ1つでどこでも簡単にできることに着目した。 ・活動をはじめるにあたり、すでにラジオ体操を実施している場所や団体を調査した。 ・ラジオ体操の推進活動を行っていた「小垣江ラジオ体操の会」に協力を依頼した。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		



活動タイトル	ほっとカフェ(認知症カフェ)の開催	
福祉委員会名	高須福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区内のフローラルガーデンよさみに喫茶店があり、地区長とつながりがあった。 ・当時、地区内に認知症カフェがなく、認知症当事者や家族介護者が集まる場所がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3・4木曜日にフローラルガーデンよさみ内の喫茶店にて「ほっとカフェ(認知症カフェ)」を開催。 ・包括職員やボランティア、認知症当事者等のさまざまな人が集まっている。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェは事業所等で行うことが多いが、「ほっとカフェ」は一般の人も利用する喫茶店で開催しているため、認知症の人とそうでない人を区別することなく、誰もが楽しめる場となった。 		
		

活動タイトル	市民だより手渡しによる見守り活動	
福祉委員会名	半城土福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所さん同士のつながりが減り、お隣さんの顔を知らないことがあった。 ・高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯等、見守りが必要と思われる人が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者を対象に、月に2回配布される市民だよりを班長が手渡しする。 ・新聞が溜まっている等の異常があれば、関係機関に連絡をすることで、見守りを行う。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・班長が各世帯へ定期的に市民だよりを配布することに着目し、地域の見守り体制を整備した。 ・要支援者全員を対象にするのではなく、希望制にすることで班長の負担を減らした。 		
		



活動タイトル	ワイワイフェスタへの単身高齢者招待	
福祉委員会名	東刈谷福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に支援が必要な住民の避難方法について検討したいが、「どの人がどのような課題を抱えているかがわからない」という課題があった。 ・地区行事への高齢者の参加が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会が毎年開催している「ワイワイフェスタ」に、単身高齢者を招待。 ・民生委員・児童委員の協力のもと事前に対象者に招待はがきを送り、参加の可否を尋ねる。不参加の人には参加できない理由についてアンケートをとり、対象者の課題把握に努める。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・1つの活動で <ul style="list-style-type: none"> ①地区行事への高齢者の参加促進、②対象者の課題把握 という2つの役割を果たした。 ・自治会、民生委員・児童委員、自主防災会等、さまざまな立場の住民が協力し合える福祉委員会だからこそできる事業。 		
		

<p>活動タイトル</p>	<p>おげんきサロンの開催</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>野田福祉委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・野田地区は広いが、サロンが1か所しかなかった。 ・既存のサロンは参加者が多く、新たな参加者の受け入れが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンとは別の会場で、高齢者を対象としたサロンを開催。夏休み期間中には対象を全世代に広げ、多世代サロンを開催。 ・内容は、将棋、折り紙、紙相撲、健康マージャン等さまざま。 ・高齢者を対象としたサロンでは、講師を呼んだ「ミニ講座」を行っている。 	
<p style="text-align: center;">活動のポイント</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンと別の会場で開催したことで、今まで参加できなかった人が参加できるようになった。 ・参加者として来た人が将棋やマージャンを教える等、全員が主体となれるサロンづくりができた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		



活動タイトル	防災マップの作成	
福祉委員会名	刈谷西部福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・地区と民生委員・児童委員に避難行動要支援者名簿が配付されたが、地区内の要支援者の情報が一目で把握できるようなものがなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組長と民生委員が主体となり、地区の住宅地図に、避難行動要支援者名簿に記載のある世帯等の情報を落とし込む。 ・完成したマップはそれぞれが保管し、要支援者の居場所を把握できるようにする。 	
活動のポイント		
<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを作成することで、要支援者に対する地区内の意識が高まった。 ・組長と民生委員と一緒に作成することで、両者の顔合わせの機会となった。 		
		



<p>活動タイトル</p>	<p>交流サロンホットとうぶ</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>ホットとうぶ推進委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・刈谷東部地区には子育てサロンがなく、子育て世代が市民館を利用することが少なかった。</p>	<p>・市民館にて、子育て中の親子を対象とした子育てサロンを月1回開催。 ・社協の作業療法士が参加することで、発達等の相談に対応できるようにしている。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・子育て中の人が集まる場ができた。 ・いきいきクラブの会員にも参加してもらうことで、多世代交流の場にもなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>要支援者の見守り活動</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>元刈谷福祉委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・民生委員・児童委員のみで要支援者の見守りを行うことは難しく、見守りの目を増やしたいという思いがあった。</p>	<p>・組長・班長が要支援者へ訪問して顔合わせを行うことで、日常的な見守りができる環境を整えている。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・組長・班長は毎年交代するため、要支援者への見守りの目が増えた。 ・要支援者全員を対象にするのではなく、特に支援が必要な人を決めて訪問することで、組長・班長の負担を軽減した。</p> <div data-bbox="525 1258 1066 1917" data-label="Image"> </div>		



<p>活動タイトル</p>	<p>目くばり・気くばり・声かけ運動</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>熊地区ふくし連絡会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・助け合い・支え合いができる地域にするためには、住民同士の日頃からのつながりを深める活動が必要と考えた。</p>	<p>・回覧板等を通して、以下のことを地域住民に呼びかける。</p> <p>①登下校時に家の前に出て、地域全体で子どもを見守る。</p> <p>②市民だよりや回覧板等をできるだけ手渡しし、顔を合わせる機会を増やす。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・誰でも気軽に取り組めるので、地域住民全員が活動の主体となれた。</p> <div data-bbox="496 1093 1093 1926" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 20px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: right;">令和6年1月1日 熊地区ふくし連絡会</p> <p style="text-align: center;">みんなでやろう！ 目くばり・気くばり・声かけ運動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: left;">  <p>ご近所さんどうしのつながりが なくなっている気がするなあ</p> </div> <div style="text-align: right;">  <p>地域で子どもたちを見守りたい！</p> </div> </div> <p style="text-align: center; color: green;">つながりのある熊地区にする第一歩として、 みんなでやってみよう“目くばり・気くばり・声かけ”を！</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>登下校中の子どもたちに「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と声をかけましょう！</p> <p>◎子どもたちと大人のつながりが強くなり、安心して登下校ができます</p> <p>◎あいさつには犯罪を未然に防ぐ効果があり、安全で安心なまちになります</p> <p>ご近所さんに配る広報誌(市民だより、回覧板など)をできるだけ手渡ししてみましょう！</p> <p>◎顔を合わせる機会が増え、つながりが強くなります</p> </div> <p style="text-align: right; color: green; font-weight: bold;">やってみよう！</p> <p style="text-align: center;">一人ひとりのちょっとした心がけで 熊地区をより仲のよい明るいまちにしましょう！！</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>熊地区ふくし連絡会 詳細は裏面をご覧ください。</p> </div> <p style="font-size: small;">熊地区の各団体の活動や課題を共有し、支え合いのできる地域をつくることを目的として、熊地区ふくし連絡会を設けて活動の検討をしました。地域のつながりを強める活動をすることで、お互いに支え合いができる地域を目指します。ご協力をお願いします。 令和2年2月設立</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">～熊地区に笑顔と活力を！～</p> </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>歩け歩け大会でのふれあいブース実施</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>小山ふれあい推進委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・もともと多世代交流を目的としたサロンを開催していたが、コロナのため中止になってしまった。</p> <p>・サロンに代わる活動として、地区行事である「歩け歩け大会」にて多世代交流の要素を盛り込めないか検討した。</p>	<p>・「歩け歩け大会」にて、多世代交流を目的に「ふれあいブース」を実施。</p> <p>・内容は、わなげ、ジェスチャーゲーム、あっちむいてほい等さまざま。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・コロナ禍で既存のサロンが開催できなくなってしまい、屋外の地区行事に着目した。</p> <p>・子どもから高齢者まで幅広い世代の新しい交流の場となった。</p> <p>・既存の地区行事のより一層の充実につながった。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

活動タイトル	防災に関する勉強会	
福祉委員会名	重原福祉委員会	
活動に至った背景	活動の概要	
<p>・地区内の防災意識が低いという課題があり、向上のための取り組みを検討した。</p>	<p>・防災に関する勉強会の開催。 ・防災についての基礎知識を学ぶとともに、障害についても理解を深め、災害時の支援方法について検討する。</p>	
活動のポイント		
<p>・地域のさまざまな施設や団体と連携し、講師として当事者に来てもらうことで、より理解を深めることができた。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>いきいき100歳体操</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>桜区福祉協議会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・「いきいき100歳体操」という体操のDVDと手足につけるおもりを地区で購入したが、活用の機会がほとんどなかった。</p> <p>・気軽に体を動かせる場がなかった。</p>	<p>・桜市民館にて月に1回、「いきいき100歳体操」を開催。</p> <p>・社協の理学療法士が参加しており、健康相談ができる場にもなっている。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・体操後に茶話会や脳トレの時間を設けることで、地域のつながりづくりの場にもなった。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>サツマイモづくりを通した多世代交流事業</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>井ヶ谷福祉委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・もともと多世代交流のモデル事業として市から期間限定の補助金をもらって始まった事業だったが、補助金の交付終了が近づいてきた。 ・多世代交流の場となる良い事業で参加者にも好評だったため、福祉委員会として継続を支援することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の畑を借り、サツマイモの植え付けや収穫を子どもから高齢者までの幅広い世代で一緒に行く。 	
<p style="text-align: center;">活動のポイント</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモづくりを通した多世代交流ができるとともに、子どもたちに自然と触れ合う機会を提供できた。 ・住民のほか愛教大の学生も参加しており、さまざまな人が担い手となれた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>東境の歴史に関する勉強会の開催</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>東境福祉委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・構成員より「以前いきいきクラブで勉強会を開催したら参加者が少人数だったので、福祉委員会として開催したい」という意見があったため、開催することにした。</p> <p>・当時大河が話題になっていたため、東境の歴史をテーマとした。</p>	<p>・地区内の住民を対象に、東境の歴史についての勉強会を開催。</p> <p>・今後の活動の参考にするため、福祉委員会として取り組んでほしいこと等についてのアンケート調査を実施。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・刈谷市の出前講座を利用したため、比較的簡単に開催できた。</p> <p>・勉強会の中で福祉委員会についての説明を行い、住民に知ってもらう機会としても活用した。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

<p>活動タイトル</p>	<p>子どもカフェの開催</p>	
<p>福祉委員会名</p>	<p>一里山福祉委員会</p>	
<p>活動に至った背景</p>	<p>活動の概要</p>	
<p>・もともと更生保護女性会が子ども食堂を開催しようとしていたが、1団体だけでは運営が難しく、福祉委員会として開催することになった。</p> <p>・子ども食堂は開催のハードルが高かったため、負担なく開催するためにカフェ形式で行うこととした。</p>	<p>・区内の子どもを対象として、夏休み等の長期休みに開催。</p> <p>・内容は、お菓子を食べながらのおしゃべりや、ポッチャ、ビンゴ、ダイナミックじゃんけん等さまざま。</p> <p>・市販のお菓子やジュースを提供する。</p>	
<p>活動のポイント</p>		
<p>・区内の子どもを対象とした行事を福祉委員会が開催することで、親の負担なく子どもが楽しめる機会を提供した。</p> <p>・負担なく継続的に開催できる運営方法を模索した。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		